わたしたちの提案

木こりによる自然学校構想

何故、このテーマに取り組むのか？

- 木こりとして山の大切さを伝えたい
- 安倍川の水を守りたい

安倍川の水源を守ること

＝梅ヶ島の山を守ること

＝静岡市の飲水（産業）
　を守ること

静岡市の森林面積約107,000haの
うち、個人や企業が所有している
森林は約96,000ha
すなわち、静岡市の森林は、
国や県、市でなく、
個人の所有により成り立っている
↓↓
その山を整備する林業事業体の雇用
が確保されている必要がある！！

平成26年度版静岡県森林林業統計要覧
pp.18-19

静岡市の飲水や産業を守るには、林業従事者が足りない

現在　年間60ha/6人

理想　年間100ha/10人

しかし現状は……

- やりたくても出来ない
- 林業は稼げない
- 林業の他に仕事をしている

約240万円
森林組合の平均年収
（森林白書2015）

約400万円
全職種の平均年収（国勢調査）

既存の課題（原因）・対策

殆どの林業事業が補助金で補填

↑↑

・緑の力再生整備事業

木材が高く売れない

（外材輸入・エネルギー革命）

↑↑

・しずおか木使いネット

・地域材活用促進事業

林業事業体の零細化

林業従事者を増やすため
新たな収入源が必要！！

自然豊かな山や森には、子どもの環境教育という重要なニーズがあった

学校教育における農山漁村体験活動に対する高いニーズ

2006年2月発表内閣府「都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査」

学校が子ども達に農山漁村での体験活動を取り組むことについて、89%が「取り組むべき」と回答

※農山漁村での体験活動＝子ども達が農山漁村地域で人々と交流し、自然とふれあう機会を提供する活動

※東京都区部の回答に限ると、「取り組むべき」との回答が９６%を占める
※「取り組むべき」との回答は、男女ともに高い（男８８．４%、女８９．１%）

※体験学習を農山漁村地域で行う場合に心配なことは、
ケガなどの事故（27%）、親の経済的負担の増加（22%）が上げられている。

子ども農山漁村交流プロジェクト　http://www.kouryu.or.jp/kodomo/about/yoron.html

林業施業以外の収入源（新事業）

木こりによる自然学校

森の楽校

「やまびらき（仮）」

・子どもたちへの環境教育
・山に対するまちの人たちの意識改革

木こりとして
森林案内を行いました

主催：
しずおか森と学ぶ家づくりの会
静岡市林業研究会

実施日：2015年11月22日（日）
参加者：18人（小3～小6＋引率者）
内容：森林案内+伐採見学+物作り

アンケート結果（引率者5名）：
有意義であった　（はい）100%
次回の参加　　（したい）100%
山と街どちらでやりたい？
（山でやりたい）100%

今後の予定（2016～2020年）

2016年

- 森林案内（隔月開催＋林業研究会の依頼）
- 農援隊の活動（静岡大学農学部・藤本ゼミ）
- 梅ヶ島の人たちとともに具体的なデザインを確立

2018年

- 「やまびらき（仮）」仮開校
- 森林案内（毎月開催）
- 立ち上げ時に必要な助成金や寄付金の情報収集

2020年

- 「やまびらき（仮）」本開校（地域全体で受入）
- 小学校体験活動カリキュラム導入

準備・周知期間

力を貸してくださる方、活動に興味を持ってくださった方、情報提供など、下記までご連絡ください

E-mail：umegashima28@gmail.com